ひがしの

冬休み号　東野小学校報　No.10

正月あれこれ　　校長　青山龍三

朝霧が阿木川から流れて、校庭を包むようになりました。子どもたちはそれでも元気よく縄跳びや一輪車に挑戦しています。中には半そで短パンの子もおり、以前はよく使われていた“子どもは風の子“という言葉を思い出しました。

さて、２学期が終わり冬休みに入ります。２学期中は運動会や収穫祭、資源回収など、休日の行事も多くあり、保護者や地域の皆様には様々な面でお世話になりました。学校の諸活動に対するご理解とご協力に対して改めて深く感謝します。ありがとうございました。

年末には各家庭できっといつもより力を入れた掃除がなされると思います。子どもにも是非責任ある仕事を与えてやってほしいと思います。“お手伝い”ではなく、ある区域（部分）を一人でやり切らせるような仕事がいいのではないかと思います。それが済むといよいよ正月です。

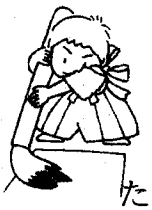
まずは子どもたちの一番の楽しみといえる“お年玉”です。過去に金額を調べたとき、合計が５万円以上の子がいて驚いたことを覚えています。そもそもお年玉とは・・・。もともとは“お年魂”でした。歳神様からいただく新しい魂（生命力）という意味が込められていました。それがなぜ今のようになったのかは諸説ありますが、お年玉には『神様に祝福してもらい、１年間病気やけがをしないように』という願いが込められています。無駄遣いをしないように大切にしてほしいものです。

正月には百人一首で遊ぶ人が増えます。八百年位前に藤原定家が選んだものとされていますが、何といっても百首もあるので、私は残念ながらあまりというかほとんど覚えてお

らず、子どもたちと遊んでもいつも下の句を聞いてから探すので負けてしまいます。ですからここでは百人一首にかこつけて、九九と万葉集について話します。

九九は２年生で勉強します。きっと冬休みには一生懸命練習することと思います。なぜ九九というか。それは九九が日本に伝わったときに起因します。日本には中国から漢字と一緒に入ってきたと考えられています。そのときの九九が書かれた表が実は「九九八十一」から始まっているのです。ですからこの表を九九と言ったそうです。今の「二一が二」から始めて「九九八十一」で終わる九九とは逆になっています。

一方、万葉集は、今から千年以上前の日本最古の和歌集です。全部漢字で書かれているのに日本語なので、漢字の意味は無視して、音や訓の読みだけを使った、今で言う当て字が多くあります。例えば「剣大刀　いよよ研ぐべし」を「都流藝多知　伊与餘刀具倍之」と表しています。ここで九九の登場です。実は当時すでに九九が一般的に使われていたことを示す例が万葉集にあります。「木の間立ち潜く（くぐ）」は原文では「許乃間立八十一」、「獣(しし)こそば」は「十六社者」とかかれています。ほかにも「二二」を「し」、「二五」を「とを」と読ませています。九九を練習した木簡も出土しています。当時の貴族が『まろは九九を覚えたでおじゃる』みたいなことを言っていたかもしれないと思うと面白いですね。



今回の冬休みは曜日の関係でいつもより長くなります。小学生で百人一首や九九がまだ怪しい人は昔の公家や貴族になったつもりで覚えてみましょう。

それでは、よいお年を